

「働く意義」を考える

- 「社会で求められる人材」、「働く上での心構え」とは -

株式会社 開倫塾
代表取締役 社長 林 明夫
(経済同友会、会員)

1. はじめに - 「働く意義」を考える -
(1) 何のために働くのか - 「よく生きるため」 -
生活できるだけの収入を得るため
仕事を通して「自己実現」するため

Q: 「よく生きるため」とは、どのようなことですか。

A: (林明夫: 以下省略) 「人はみな『よく』生きようとしている」と私は思います。人間はみなそれぞれに、しかもそれぞれなりに「よく」生きようとしています。だれもが、それぞれなりに生き方を選んで「よく」生きようとしていると思います。

* (村井実著「みんなに伝えたい教育問答」東洋館出版社、2007年7月20日刊、7ページ)
何のために働くのか、つまり仕事をするのも「よく生きるため」と私は考えます。

Q: 「生活できるだけの収入を得るため」とは、どのようなことですか。

A: 「よく生きるため」に働くのですから、働いた結果得る収入は、ある程度の金額つまり「生活できるだけの収入」を目指した方がよいと私は考えます。一人で暮らす場合は「生活できるだけの収入」を一人で得なければなりません、生活を共にする家族と暮らす場合には、働く人の合計で「生活できるだけの収入」を目指すべきだと私は考えます。

Q: 「仕事を通して『自己実現』するため」とは、どのようなことですか。

A: 自己実現というと、大きな夢や理想といった何か特別なもの、日常生活とはかけ離れたものと思われがちですが、自己実現とは本来生活そのものです。自分の望む人生を、自分の日常生活の中で実現させることが、自己実現だからです。

日々の生活の中で、日々の仕事の中で、努力して問題を一つ一つクリアしていくことで、人は自己実現していきます。それは自分だけの「人生の成功のキャリア・パス」を作ることです。

そして、キャリア形成に成功している人は、ほとんどの人がこのことをきちんと理解しています。
(* 橘・フクシマ・咲江著「人材革命」祥伝社、2007年8月5日刊、15 ~ 16ページ)

2. 社会で求められる人材とは - 人様のお役に立つ人 -
(1) 「役に立つ」とは、「問題解決」できること。
(2) 「問題解決能力」をもつ人が求められる。

Q: 社会で求められる人材とは何ですか。

A: 人様のお役に立つ人だと私は考えます。

Q：人様とは誰のことですか。人様に役立つとはどういうことですか。

A：仕事をする場合でしたら、仕事には必ずお客様、難しいことばで言えば顧客(こきやく)がいます。仕事とは、もの(製品)やサービスを提供することですが、ものやサービスを提供することでお客様(顧客)の問題解決に役立つことが大切です。お客様(顧客)の問題解決に役に立たなければ、仕事をしたことにはなりません。

Q：だから、「問題解決能力」のある人が社会では求められるのですね。

A：その通りです。

3. 「能力」とは - 鍵になるような大切な能力とは何か -

(1) ことばや知識、技術をうまく用いる能力(相互作用的に道具を用いる能力)

(2) ことばや文化が異なる人々と交流する能力(人間関係をつくる能力)

(3) 自律的に活動する能力

(* 「キー・コンピテンシー・国際標準の学力をめざして」明石書店 2006年5月31日刊、200～244ページ)

Q：「問題解決能力」を身につけるためにはどうしたらよいと考えますか。

A：3つの鍵になるような大切な能力(キー・コンピテンシーといいます)を身につけることを目指したらよいと思います。

Q：最初の「ことばや知識、技術をうまく使いこなす」とは、どのようにすることですか。

A：小学校や中学校、高校、大学、大学院、専門学校、専修学校などで学ぶ内容を十分「理解」し、それを「定着」させて、社会に出てから使えるようにすることです。これからの社会は、「グローバル化」がどんどん進んだ「知識基盤社会」になります。つまり、世界中の人々が自由に行き来するようになります。また、知識が基盤となる社会になります。英語とコンピュータは仕事の上でも欠かせません。学校の勉強はすべて社会に出て役に立ちますから、しっかりやっておきましょう。特に英語とコンピュータはよく身につけて下さい。自分の専門分野、つまり、これだけは人に負けないものをつくっておくことも大事です。やっつけていてどんどん引き込まれるもの、楽しいもので、人様のお役に立つもの、問題解決になるものを一つか二つ自分の得意分野、専門分野にすることをお奨めします。(ただし、「倫理」に反すること、つまり相手のいやがること、「道徳」に反すること、「法律」に反すること、「犯罪行為」をしてはいけません。)

Q：二番目の「ことばや文化が異なる人々と交流する能力」とは、何ですか。

A：グローバル化が進み、人やもの、お金が国境を越えてどんどん出入りするようになりますと、ことばや文化、大切なものに対する考え方 - 価値観 - が異なった人々や人々の集団の中で交流する能力が求められるということです。

他人とよい関係をつくるのも大切な能力です。

協力する、チームで働くのも大切な能力です。

争いを処理し、解決するのも大切な能力です。

(ところで、チームプレイとは何か考えたことがありますか。チームでプレイするときには、一人ひとりに役割があります。自分に与えられた役割は他の人を頼りにしないで完全にやり遂げること、また、チームメイトを信頼することで成り立つのが、チームプレイだと私は思います。)

Q：三番目の「自律的に活動する能力」とは、何ですか。

A： 自分自身の大きな夢、高い志(こころざし)をもって生きること。

夢や高い志を成し遂げるために計画を立て、少しずつ一步一步前に進むこと。

自分自身の強みと同時に弱点を知り、強み、つまり長所を伸ばし、弱点、つまり短所を改めること。

自分のもつ権利と義務を知ること。自分のおかれた状況を知ること。自分に求められていることを知る。そのような中で、夢や志を成し遂げる努力をすること。

一番大切なのは、自分自身をコントロールすること。自律心。ただし、ストレスを解消する方法も自分なりにもつこと。一日に一回は、自分を見つめ直す時間と同様にホッとする時間や楽しい時間、リラクセスする時間をもとう。

4．働く上での心構えとは

(1)健康第一。(心の健康、身体の健康)『タバコは絶対ダメ』

早寝早起き、朝ご飯

遅刻、欠席、早退、忘れ物、おしゃべり、居眠り、携帯電話は…。

- 職場にはゆとりをもって出勤すること。 -

(2)あいさつ第一。(大きな声であいさつができること)

(3)躰(しつけ)も大事。

美しい立居振舞い(たちいふるまい)

(ア)服装第一(だらしない服装は相手にされない)

(イ)食事は美しく(地面に座り込んで物を食べるのは論外)

敬語表現を含む言葉遣い

(ア)職場では「です、ます」調が原則。

(イ)乱暴な言葉は信頼を失う。(仕事にならない)

(4)メモを取り続けること。取ったメモを完全に身につけること。

仕事の上での「教科書」はない。自分のメモを積み重ね、自分で仕事の上での教科書をつくるのが大事。仕事の上での「My Notebook」をつくろう。

上司、同僚(どうりょう)、お客様、ビジネスパートナーから教えてもらったことは一言も残さずメモを取り続け、あとで何回、何十回もそれを読み返して、どうしたらよいか考えること。

必要なことは、すべて完全に覚えること。

(5)新聞を毎日1時間以上読み、考えること。スクラップブックをつくること。

(6)本をたくさん読み、考えること。気に入った本は5～6回読み、考えること。気に入った文は「書き抜き読書ノート」に書き抜くこと。それを、何回も何回も読み返すこと。

5．おわりに - 「学校での勉強をしっかりと」 -

(1)学校の成績の上げ方、希望校合格の秘訣

学校の先生の授業を真剣に聞く(手を机の上に置き、先生の目を見て、一語一句聞き漏らさないぞという態度で授業を受けること)。

学習する内容を十分「理解する」こと(うんなるほど、よく分かった)。

一度理解した内容を「定着」させる(必要なことは、ノートにメモを取り続ける)。

(ア)音読練習

内容が何も見ないで正確にスラスラ言えるまで、大きな声を出して読む練習。

(イ)書き取り練習

何も見ないでスラスラ言えるようになったことを、正確に楷書(かいしょ)で書く練習。

(ウ)計算(問題)練習

一度学校で解き、どのような理由で答えが出るかよく理解できた計算問題や練習問題は、すべて問題を見た瞬間に条件反射で解答できるまで「練習」を繰り返す。

*テストでよい点数を取るには、一度やったことのある問題は、条件反射で正解を出して早めに終了させ、残った時間で難しい問題をやるのが秘訣。

応用力(合格点を得ること)

(ア)過去問をやってみる }
(イ)予想問題をやってみる } 間違っただ理由を考える(「理解」不足か、「定着」不足か)

(2)私の好きな言葉

「一生勉強、一生青春」足利市在住の書家 相田みつを先生

ご清聴を感謝申し上げます。